

温故知新

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2006.3 Vol.6

平成18年3月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市中央二丁目1番1号
TEL (053) 457-6124 FAX (053) 457-6125
http://www.suac.ac.jp/lib/index.html

Contents

■表紙

『色絵藤花図茶壺』、
『色絵雉香炉』—— ①

■巻頭言

何でも読みたい、
夢中になりたい —— ②

静岡文化芸術大学 文化政策学部
芸術文化学科長
平野 昭

■図書館散歩

日本人の感性
静岡文化芸術大学 デザイン学部 —— ③
技術造形学科長
高梨 廣孝

■〈シリーズ〉

図書館・情報センターを使いこなそう!

Japanknowledge

(ジャパンナレッジ) 編 —— ④

■知っていますか?こんなサービス —— ⑥

①



②



①『色絵藤花図茶壺』②『色絵雉香炉』 野々村仁清 作 国宝
〔原色日本の美術23 陶芸(2)〕小学館1980 (751/Se 22)

①御室焼仁清の茶壺は、装飾性豊かな色絵の艶麗優美な作行きで、既存の茶壺の概念を打ち破った新しい感覚のものであった。天才的な轆轤技により稀に見る薄さで均等に形成され、貫入を生じた独特の白濁色の釉は、磁器にはない陶器ならではの温かみを感じさせる。構図の間の取り方も絶妙である。(高さ28.8cm 口径10.1cm MOA美術館所蔵)

②仁清の彫塑的作品の代表。鳥や獣、様々な器物の形姿を巧みに写し、香炉や掛花生、香合等が初期の京焼諸窯で焼成された動向に添い製作された。そのフォルムの確かさに加えて美しい着彩は、写実と虚構を巧みにおりまぜ、独特の美の世界を創りあげている。
(高さ18.0cm 長径47.6cm 石川県立美術館所蔵)

野々村 仁清 (文献あるも生没年未詳である)

江戸初期の京焼の名工。丹波(京都府)野々村の壺屋の出身と伝えられ、名は清右衛門。若くして瀬戸に赴き茶陶を学んだ。帰洛後、「きれいさび」の茶風で知られる茶匠金森宗和(1584-1656)の推挙で、洛西の御室仁和寺門前に開窯。仁和寺の仁と清右衛門の清をとった仁清の号を銘印とし、二代にわたり用いた模様。仁清の窯で陶技を学んだ尾形乾山(1663-1743)の『陶工必用』に、御室焼仁清陶法の詳しい記述がある。

応仁の乱後荒廃していた仁和寺が再興に向かい、そこでは後水尾院その他の公家の宮廷サロンが構成されていた。そして、幕府権力の支配に対する公家方の精神的・文化的紐帯が強く意識されていた。仁清の作品はこの仁和寺門前に特に選り、王朝の美と教養を背景にした、江戸に対する京都公家方の文化への意志の美しい表示であった。

(『日本の陶磁12』中央公論社、『日本のやきもの22』講談社 参照)



静岡文化芸術大学 文化政策学部
芸術文化学科 学科長

平野 昭

Hirano Akira

文中に登場した図書

辻惟雄著
日本美術の歴史
702.1/Ts41

辻惟雄著
奇想の系譜
721.025/Ts41

辻惟雄著
遊戯する神仏たち
現在購入手続中

林達夫著
林達夫著作集
第1巻 芸術へのチチェローネ
第2巻 精神史への探究
第3巻 無神論としての唯物論
第4巻 批評の弁証法
第5巻 政治のフォークロア
第6巻 書籍の周囲
別 巻 書簡
121.9/H48/1-7

中野雄著
丸山真男:音楽の対話
760.4/Ma59

丸山真男著
丸山真男講義録
311.21/Ma59/1-7

何でも読みたい、夢中になりたい

ここ10数年、わたしはある意味で二重生活?週の4日か5日を勤務する大学のある町で過ごし、週末に家族のいる横浜に帰り、月曜日に都内の大学で1日講義してそれから浜松に戻る。本学赴任前の5年間も同じパターンだった。赴任地は、しかし、沖縄。今は東海道新幹線だが、当時は毎週ジェット機通勤。一切邪魔の入らない単身移動のこの時間こそ恰好の読書アワーであった。

そうした悪癖からか、最近めっきり視力が落ち、従って読書量も激減している。それでも講義の準備や研究のため以外の本を読むのは、やはりこうした時間しか、今のところとれない。今、手にしているのは辻惟雄著『日本美術の歴史』（東京大学出版会、2005年）だ。店頭で平積みされたこの書の腰巻に「縄文からマンガ・アニメまで」とあり、多色刷りの豊富な写真やいくつもの見覚えのある作品図版があまりに綺麗で、店頭でバラバラとページを送っていると、大好きな手塚治虫の懐かしい『メトロポリス』（1949年）の6コマ。映画のズームアップのコマ割が静止画であるにもかかわらず動画以上の迫力でせまる。次ページにはまだ記憶に新しい宮崎駿監督のアニメーション映画『千と千尋の神隠し』（2001年）の一場面が扱われている。上質紙で製版されており、車内で読むには少々重いのだが、ページを送るだけでも楽しい。縄文から弥生、古墳時代を経て飛鳥、白鳳、天平というように多くの図版が次々に現れるのを眺めているだけで楽しい。うれしいことに、日本の歴史記述に特有の難しい漢字に振り仮名がふってあって、今になってはじめて正しい読みを知った言葉が少なくない。

西洋音楽史研究をライフワークとするわたしはこれまで西洋美術史関係の書を手にはすることはあっても日本美術史まで目が届かなかった。著者の辻には『奇想の系譜』（1970年）や『遊戯する神仏たち』（2000年）といった怪しげなタイトルでわたしの関心を引く著書が少なくない。日本美術史のテキストあるいは参考書でありながら、辻は日本の文化史そして思想史とは言わないまでも各時代に生きた人々の思考やその時代の思潮まで踏み込んでいて興味が尽きない。車内読書でわたしが今30年ぶりに読み直しているのは『林達夫著作集』全6巻だ。とりわけ第1巻「芸術へのチチェローネ」、第4巻「批評の弁証法」はこれまでも何度も読み返している。その多くが大戦前の昭和期に書かれたものであるが、芸術との関わりについて述べる林の言葉の明快さと確信の背景にヨーロッパ文明史、芸術史そして思想史に精通した圧倒的な知識の豊かさが見えてくる。30年にわたって音楽評論を書き続けてきたわたしにとって、「批評家A。学界では、彼の書くものはすっかりジャーナリスティックに悪擦れしてしまったと言う。文壇では彼の書くものはペダンティックで鼻持ちならぬと言う」という林の言葉（『批評家棄権』1935年）は、70年の時を越えて今でも聞こえてくる。林を読み終えたら、丸山真男に再挑戦。中野雄著『丸山真男:音楽の対話』（文春新書）で丸山のワーグナー音楽への熱い情熱と音楽学者顔負けの作品論に接した今、まず、東京大学での『丸山真男:講義録』あたりから読んでみたい。



静岡文化芸術大学 デザイン学部
技術造形学科 学科長
高梨 廣孝
Takanashi Hiroaki

文中に登場した図書

ハーバート・リード著(滝口修造訳)

芸術の意味
701/R21

ハーバート・リード著(勝見勝他訳)

インダストリアル・デザイン
501.83/R23

ハーバート・リード著(宇佐美英治訳)

モダン・アートの哲学
702.07/R21

ハーバート・リード著(宇佐美英治訳)

アイコンとアイデア
701.2/R21

小原二郎著

木の文化
713/Ko27

西岡常一・小原二郎共著

法隆寺を支えた木
524.1/N86

西岡常一著

木のいのち 木のころ
526.1Ki45/1-3

北大路魯山人著

魯山人味道
596.21/Ki71

北大路魯山人著

魯山人陶説
751.1/Ki71

北大路魯山人著

魯山人書論
728.04/Ki71

日本人の感性

大学時代は片道2時間半をかけて自宅から通っていた。総武線千葉駅から両国まで40分間ノンストップの列車があり、この時間が私の読書タイムであった。ここで読む本はかさ張らない文庫本が主体であり、内外の名作といわれるものを脈絡なく読み漁った。「生きて行くための普遍的な価値」などについて学んだのもこの頃であった。

大学での友人の殆どが絵画や彫刻など純粋美術の世界に進もうとする人たちであったので、集まれば藝術談義に花が咲く。私はこの議論に加わるために理論武装をしなければならず、乏しい知識を少しでも膨らませるために、人類史における藝術の発展に鋭い視点を持っていたハーバート・リードの著作に助けを求めた。「藝術の意味」「インダストリアル・デザイン」「モダン・アートの哲学」「アイコンとアイデア」などの著作で、大胆且つ鋭い論旨を展開する「生きた美術史」を目の当りにして、人間のなすべき仕事は何であるかを教えられた。

実社会に出てみると日々の仕事に追われて読書に当てられる時間が少なくなるとともに、読む本の傾向が大幅に変わってしまった。文学作品よりも仕事に関連した「ものづくり」の本が中心となり、とりわけ日本文化に根ざした美しい情緒や形について触れた本に強い関心を持つようになった。我々のように戦後教育を受けた世代は、欧米の文化に憧れるあまり日本の伝統的な感性を失ってしまった世代であるとの批判を一方では受け、それに対する強いコンプレックスを持っていたのも事実である。

こんな時に仕事の関係で小原二郎氏に出会った。椅子に関する人間工学の分野では日本の草分け的な存在ではあったが、農学博士である氏の博士論文は「木材の老化に関する研究」であった。木材の専門家である小原氏は、1972年「木の文化」という本を出版し、その中で、有史以前から木とともに歩んできた日本民族の足跡を、仏像彫刻から建築に至までの幅広い分野から言及している。

その後、最後の宮大工と言われ、文化功労者にも選ばれた西岡常一氏とともに「法隆寺を支えた木」を出版している。宮大工として日本文化の伝承に一生を捧げた西岡常一氏の言葉は、経験という実績に裏打ちされた強い説得力を持っている。私はこの2冊の本がきっかけとなって日本人に特有な感性、即ち悠久の自然と儚い人生との対比の中に美を発見する日本人特有の感受性に強い興味を抱くようになった。1994年の秋、西岡常一氏が棟梁として腕を揮って完成させた薬師寺伽藍の復興を記念して、西岡氏の講演会が薬師寺で開かれた。信奉する氏のお話を拝聴したいと講演会に参加したが、すでに重い病に冒されていた西岡氏は、壇上には上ったものの一言の言葉もなく、代わって副棟梁を務めた小川三夫氏が講演を行った。残念にもその翌年に他界してしまったが、「木のいのち、木のころ」など口伝による優れた著作が多い。

食文化を通じて日本人の感性を追求した北大路魯山人からも多くのことを学んだ。陶磁器のほか、書、絵画、漆器など雅味に富んだ多彩な作品を残し、その多芸多才ぶりはまさに天才の資質をうかがわせる。魯山人の哲学は、料理をベースにしながらも、それが生活空間全体と調和を保たなくてはいけないと考え、ゆるぎない信念をもって実現したところにある。茶室という夢空間で出される食事「懷石」を研究し、料理だけではなく食器や調度品、果てはそれを運ぶ人の服飾にまで手を染めている。「魯山人味道」「魯山人陶説」「魯山人書論」などを読むと、美に対する幅広い見識に驚かされる。

Japanknowledge (ジャパナレッジ) 編

Japanknowledge の特徴

不特定多数が利用するインターネットは根拠のない情報や、評価の定まっていない情報も氾濫しています。これに比べてJapanknowledgeは常に更新された信頼のおける情報をオンラインで提供しており、単に複数の辞事典類の検索ができるだけでなく、関連項目や外部URLへのリンクも表示され、網羅的な調査が可能です。※学内1アクセス利用可

※Japanknowledgeは30種以上のコンテンツを利用できます。各コンテンツの詳細な操作説明(活用ガイド)は下記サイトからダウンロードして下さい。<http://na.jkn21.com/member/club/guide/index.html> (注※圧縮ファイル)

① Japanknowledgeへは学内ホームページから「図書館・情報センター」→「リンク集」→「学内限定データベース」からログインします。

画面 1

Japanknowledge
トップページログイン画面



基本検索

Japanknowledgeメイン画面

② OneLookコンテンツの選択

辞事典の検索:日本大百科全書をはじめとする17種の辞事典から検索

記事の検索:山根一眞氏のコラムなど5種類の記事の本文を検索

URLの検索:行政機関、学術機関、各国政府など公的機関を中心に3万の厳選されたURLを検索

書籍の検索:Amazon.co.jp及びbk1のデータベースから書籍検索。両データベースの検索結果(和書・洋書)が同時に表示されて大変便利です。

画面 2



OneLookできる辞事典類(17種)

- 日本大百科全書
- デジタル大辞泉
- 情報・知識imidaz
- 現代用語の基礎知識
- CAMBRIDGE英英辞典
- 亀井肇の新語探検
- JK Who's Who
- 日本人名大辞典
- Multimedia Internet 事典
- 科学技術略語大事典
- 全国鉄道駅データベース
- プロGRESS和英中辞典
- ランダムハウス和英大辞典
- プロGRESS英和中辞典
- 最新英語情報辞典
- Encyclopedia of Japan
- COUBUILD英英辞典

OneLookを使って静岡県について検索します。(事柄や言葉の意味を調べる)

③ 検索窓に「静岡県」と入力、「辞事典の検索」をクリックします。

④ より多くヒットさせるために、見出し+キーワードにチェックを入れます。キーワードには漢字・英数字・ひらがな・カタカナ(漢字がわからない場合)が利用できます。また、表記によって検索結果に変化があります。
例)「シェクスピア」・「シェイクスピア」・「Shakespeare」

画面 3



〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう！⑥

検索結果画面

- 5 検索結果から静岡(県)をクリックします。
※検索結果は50音順で表示されます。

静岡(県)「日本百科全書」より
検索結果の詳細項目は左側に表示され、補足データや図表・写真、関連URLは右側に表示されます。

音声・音楽あり 映像・動画あり

画面 4

検索のコツ

検索結果が少ない(0件)場合:“全文”にチェックを入れて再検索
検索結果が多すぎる場合:検索対象辞事典類を絞って再検索

- 6 目次が表示され、各項目へのリンクが表示されます。
7 項目の補足データや図表・写真、関連項目や関連サイトを表示します。
8 関連サイトのWEBページ一覧が表示されます。クリックすると別ウインドウで表示します。

便利な使い方(詳細検索・分野別検索)

A-Search(Advanced Search)は詳細検索、分野別検索が行えます。



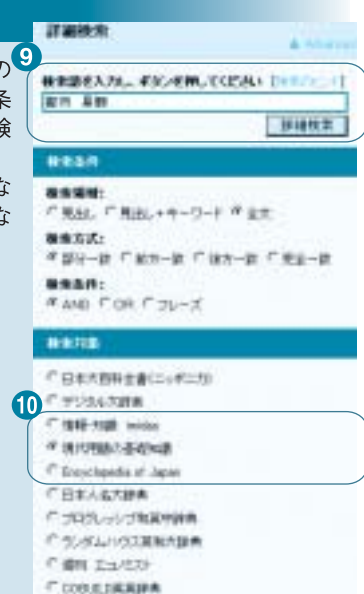
分野別検索

日本大百科全書+URLセレクト:分野別検索を選択します。
画面のように事典の目次をめくるように検索でき、似通った項目の結果も表示されます。適当なキーワードが思い付かず、分野から検索したい場合はこちらが便利です。



詳細検索

主要10コンテンツの項目・記事を検索条件で絞って詳細に検索が行えます。
OneLookで思ふような検索結果が得られないときに便利です。



- 9 キーワードを入力し、検索条件を選択してください。
10 検索対象は1つ選択できます。
11 大項目-中項目-小項目と順次表示されます。
12 詳細は日本大百科事典の内容が表示され、“関連サイト”として外部URLが紹介されます。

〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう！⑥

各コンテンツの紹介

記事・コラム

「記事・コラム」では5種類の記事をオンラインで閲覧することができ、内容は常に更新されています。(毎日及び毎週)

※「週刊エコノミスト」の閲覧には最新のAdobe Readerが必要です。



カルチャー

「カルチャー」では知識・教養が深まるものが揃っています。「荒俣宏の新・想像力博物館」は息抜きにぴったりかもしれません。



ライブラリ

「ライブラリ」では文字だけでなく、天体の運動や各国国歌など動画や音楽を使って解説しています。

※音声の再生にはヘッドホンを使用してください。



このように、Japanknowledgeは単なる辞事典類の集合体というだけでなく、利用すればするほど知識欲を高めてくれる非常に優れたツールです。日常の調査・レポートなどに大いに活用してください。

“終了時のお願い”

終了時は必ず画面の「ログアウト」ボタンをクリックして終了してください。ブラウザを強制的に閉じてしまうと、約20分程度学内からのログインが一切できなくなります

知っていますか？ こんなサービス

データベース編

「KAKEN」「NII-DBR」は、図書館・情報センターだより(Vol.4,5)で紹介したGeNiiのコンテンツの一部です。より専門的分野の資料・文献を検索する場合に役に立ちます。(学内フリーアクセス)

科学研究費補助金データベース (KAKEN)

文部科学省・日本学術振興会が交付科学研究費の研究成果を公開するデータベースで、現在行われている最新の研究内容を検索することができます。

KAKENTOP画面



検索は「採択課題名(研究名)」「研究分野別」「研究種目別」「研究者名」で行えます。

学術研究データベースリポジトリ (NII-DBR)

国内の学会、研究者、図書館等が作成している学術的なデータベースを国立情報学研究所が公開するサービスです。

NII-DBTOP画面



25種類のデータベースを対象に横断検索を行います。
※任意のデータベースの選択も可

収録データベース(抜粋)

●博士論文書誌データベース ●古文书目録データベース ●日本建築学会文献索引データベース ●中央アジア研究文献目録 ●東南アジア関係文献目録データベース ●大型コレクションディレクトリほか